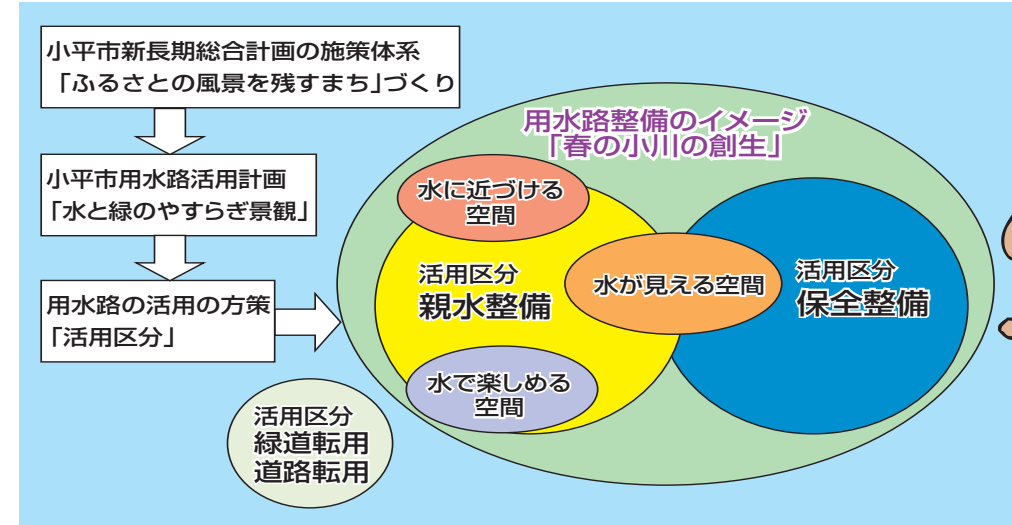
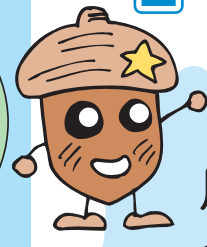


用水路整備の概念



用水路整備と活用



「春の小川の創生」をイメージして、市が計画的に実施してきた用水路の親水整備や緑道としての転用整備など、用水路整備とその活用についてご紹介します。

小平市用水路の親水および緑道利用敷地の愛称

1.彫刻の谷緑道
2.つたかべの径
3.あじさいの小径
4.花の小径
5.百日紅の小径
6.清風親水エリア
7.大門橋緑道
8.やすらぎの小径
9.鎌倉橋エリア
10.二ツ塚緑道
11.上鈴木緑道
12.木もれ日の径

すでに愛称が日常的に慣用されている用水路整備エリア(5か所)
市制施行40周年記念事業により愛称が選定された用水路整備エリア(7か所)

用水路の線形は現況用水路の概要を示したものです。

水と緑のやすらぎ景観

①水が見える空間

水のせせらぎに耳を傾けると昔ながらの景観を残している用水路を見つけたりします。用水路の歴史は、心に「余裕」を与えてくれます。



②水に近づける空間

水は緑をはぐくみ、四季折々の風景を映します。用水路に沿って設けられた自然散策路では、水生生物、草花や鳥などの豊かな自然が、「やすらぎ」と「うるおい」を与えてくれます。



③水で楽しめる空間

四季で変化する水流や水温の感触を身近に感じ、水生生物を観察することができる豊かな自然は、憩いの時間を提供するとともに「ふれあい」を与えてくれます。



愛称の選定結果

市制施行40周年記念事業の一環として、市内の用水路の親水および緑道利用敷地の愛称を募集したところ、多数の方から応募がありました。市民の方5人を含んだ選定委員会での選定結果は次のとおりです。

応募された方々、また選定委員会にご協力いただいた方々にお礼を申し上げます。
応募期間 平成14年11月11日(月)～12月10日(火)
応募人数 162人
応募件数 311件

写真番号	今回選定された愛称	愛称が採用された方(敬称略)
★3	あじさいの小径	渡邊章子・林山徹
★4	花の小径	中川智恵
★5	百日紅の小径	馬場淑子
★6	清風親水エリア	植松秀春・植松八代美・矢崎功
★10	二ツ塚緑道	矢崎功
★11	上鈴木緑道	矢崎功
★12	木もれ日の径	松田次郎



親水および緑道利用敷地の愛称一覧

写真番号	場所	愛称	利用敷地の用水路名称
1	小川町1-416付近	彫刻の谷緑道	小川用水
2	小川町2-1949付近	つたかべの径	小川用水
★3	美園町1-25付近	あじさいの小径	小川用水
★4	大沼町2-893付近	花の小径	小川用水
★5	美園町3-19付近	百日紅の小径	小川用水
★6	美園町2-17付近	清風親水エリア	小川用水
7	花小井南町2-17付近	大門橋緑道	鈴木用水
8	仲町258付近	やすらぎの小径	小川用水
9	津田町2-1付近	鎌倉橋エリア	新堀用水
★10	上水本町2-2付近	二ツ塚緑道	砂川用水
★11	上水本町1-28付近	上鈴木緑道	砂川用水
★12	津田町1-1付近	木もれ日の径	新堀用水

※写真番号欄の★印は、平成14年度に「市制施行40周年記念事業」の一環として市民の方から応募された愛称です。

ナラミーちゃんの紹介

小平市立小平第四小学校の総合的な学習の時間のマスコットキャラクターです。ボランティア活動や自然体験学習に積極的に取り組んでいる同校の子どもたちが玉川上水や新堀用水を調査しているとき、校歌にも歌われている「ナラの実」が現在も多いことに気づいて「ナラミーちゃん」と名づけたそうです。用水路整備と活用については、「ナラミーちゃん」が紹介してくれます。

わたしは、子どもたちの「心豊かな」想像力が生み出した学習のマスコットなのよ。よろしくね



用水路風物詩

① 沼さらい

市では、用水路の清掃のことを「沼さらい」と呼んでいます。郷土かるたにも「沼さらい 昔はのんだ 村の用水」と歌われています。小平村を開拓した先人たちが受け継いだ「沼さらい」を守っていきましょう。

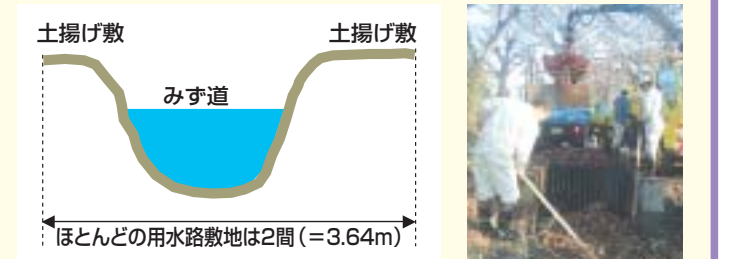
「沼さらい」は、用水路沿いの方々や、自治会・農業協同組合支部のご協力を得て、毎年5月の第3日曜日に実施しています。



② 落ち葉はき

市では、用水路に積もった落ち葉の清掃のことを「落ち葉はき」と呼んでいます。

毎年12月中旬に、新堀用水を中心として、用水路の土揚げ敷の落ち葉を用水路のみず道に流して、スクリーンというごみ揚げ場でまとめて引き揚げています。



用水路昔話

～逃げ水の伝説～

「むかしむかしのある夏の初め、のどのかわいた旅人が歩いていると、遠くに水が流れているように見えました。そこで、急いで近づくとそこには水はなくて草原ばかり、ふと目をあげると水は逃げたようにまた遠くに見えたそうです。

このような伝説から「逃げ水」という言葉が生まれ、その現象が発生する地域を「逃げ水の里」とも呼んだそうです。これは、しんきろうだったそうですが、水が乏しい武蔵野台地ならではのお話といえます。

「古文書に見る小平の水」小平市教育委員会発行より